



## New! まちライブラリーの紹介

NO. 948 (千葉県 千葉市花見川区)

### こどもカフェ柏井

たくさんの方に触れる機会を子どもたちに。地域の交流の場所であり、子どもの居場所でもあります。開館日には「こども食堂」も開いています。

- Instagram: kashiwaikodomo
- オーナー: こどもカフェ柏井



NO. 957 (大阪府 大阪市東淀川区)

### まちライブラリー@絵本の部屋「いいから」

たくさんのお絵本と文庫本、雑誌を揃えています。おうちでゆったり過ごすように楽しんでもらえたら嬉しいです。

- オーナー: 佐藤亜由美

NO. 959 (大阪府 大阪市北区)

### 本の部屋Ton ton

「本とあそぶ!」を合言葉に、リノベーションされた築65年の元アパート「UPCYCLE中津荘」で小さな図書館を開いています。子どもも大人も、本に囲まれ、本に触れて、心の扉をトントンしてください。

- Instagram: hon\_noheya\_tonton
- オーナー: 安田京子、松尾裕美



NO. 960 (奈良県 奈良市)

### 本のある喫茶店 うのん

観光地として知られる薬師寺と大池(勝間池)の間に立地し、おいしいお茶とスイーツと書物を用意しています。書物は、大和民俗学に関心のあった亡き父の所蔵物を中心に、専門家もお子様も楽しめるものを揃えています。

- Web: <https://sites.google.com/view/honncafeunon>
- オーナー: 本のある喫茶店 うのん

NO. 964 (京都府 京都市東山区)

### ヨムマチヤ・ホホホ座

町家を利用した芸術・文化活動の多目的で実験的な空間です。①表現と食にインスパイヤーされた図書室、②レンタルスペース、ノマド的な一畳泊り所をご用意しています。

- Instagram: yomumachiya
- オーナー: Tracey Cui

NO. 965 (大阪府 大阪市住吉区)

### 杉本町みんな食堂

杉本町駅から徒歩5分の団地の中にある居場所&ランチ食堂です。食堂では1食350円のランチを障がいのあるスタッフが作り、団地に住む高齢の住民とお互いを見守りながら運営するとても優しい空間です。

- Web: <http://minna-shokudo.jp/>
- オーナー: NPO法人チュラキューブ

NO. 966 (神奈川県 綾瀬市)

### りんごbooks

マルシェや公園などで不定期に、本を載せたワゴンを出します。子ども主体の本選びや読み聞かせをメインに、さまざまな展示会の図録も鑑賞します。また、手仕事を通して子供を見守れる時間を過ごせたらと思います。

- オーナー: Art Craft forest

NO. 968 (神奈川県 海老名市)

### まちライブラリー@海老名あーとらぼ文庫

海老名駅すぐのビナガーデンズパーチ内に誕生しました。オープンスペースで、誰でも気軽に立ち寄れる場所です。絵本や児童書、図鑑などスタッフおすすめの本のほか、地域の学習支援などの情報コーナーも併設しています。

- Instagram: art\_lab.bunko
- オーナー: あーとらぼ文庫



NO. 969 (愛知県 名古屋市中種区)

### 心音Books

人と犬と猫をつなぐと、クラウドファンディングによって犬と猫の専門書店「心音Books」を開店しました。店内には100の一箱本棚を併設しており、100人のオーナーが選び抜いた本を自由に閲覧できるので遊びに来てください。

- Instagram: shinon\_books
- オーナー: 村田亨

NO. 970 (奈良県 三宅町)

### crosslibrary

個人で運営しているライブラリーです。固定の場所は持っていませんが、不定期で色々な場所へ出かけます。プログラミング関連の書籍が多めです。

- Web: <https://crssrds.jp/library>
- オーナー: 若林健一

NO. 971 (大阪府 大阪市阿倍野区)

### 先生の本棚

固定の本棚を持たずに、イベントなどで不定期に本を循環させています。絵本、教育書、ビジネス本、自己啓発本などが中心ですが、ジャンルは問いません。先生ではない方のご参加も大歓迎です。

- LINEのオープンチャットでイベント告知などをしていきます。ご参加の際は、本名の入力をお願いします。
- オーナー: 兼松朋子



NO. 972 (茨城県 水戸市)

### はちとご文庫

茨城大学のすぐそばにある住み開きシェアハウス「Co-Livingはちとご」では、庭と離れを地域に開放しています。コミュニティスペースに本と本棚を置いて、読書やコミュニケーションを楽しむ場になっています。

- Facebook: はちとご文庫
- オーナー: Co-Livingはちとご 板谷隼



NO. 973 (神奈川県 横浜市青葉区)

### ナナ文庫

コミュニティカフェ「スペースナナ」の一角で、男女共同参画センター横浜北の図書室からテーマを決めて定期的に借りている本などを置いています。ギャラリーなどを楽しみながら、地域の情報も得られるブックカフェです。

- Web: <http://spacenana.com/>
- オーナー: NPO法人スペースナナ

NO. 975 (大阪府 東大阪市)

### IRORI COFFEE ROASTER

「毎月15日はコーヒーと本の日」と題して、近所の老舗本屋「栗林書房」の店長に選んでいただいた本を自家焙煎珈琲店の本棚に置いています。人と人がIRORI(爐)で繋がっていくように、本と人が繋がっていきますように。

- Instagram: irori\_coffee\_roaster
- オーナー: IRORI COFFEE ROASTER



NO. 976 (神奈川県 箱根町)

### 本喫茶わかば

古書店とカフェを併設しています。和室のカフェスペースでお茶や手作りのお菓子もお楽しみいただけます。お客様から本を借りたいという要望が多く、本の寄贈が増えてきたことから、まちライブラリーを開設しました。

- Web: <https://hakone-wakaba.jimdosite.com/>
- オーナー: 本喫茶わかば 廣田いとよ

NO. 977 (静岡県 富士市)

### まちライブラリー@ちいさいおうち

ご近所の皆さんとの繋がりを作りたいと思い、住宅地に手作りのちいさいおうちの型の本箱を置きました。ちよこっと縁側ベンチに座って、本を見て、誰かの立ち寄り場になることを願っています。

- オーナー: 狩野見知穂子



# 気軽に立ち寄れる本のある場所 社会的役割ますます大きく

**新** 年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

年明け早々、昨年を振り返る話題で恐縮です。2022年1月には、北海道千歳市で「まちライブラリー@ちとせ」の開館がありました。旧「まちライブラリー@千歳タウンプラザ」の閉鎖から10か月で再開されたのは、2200名を超える市民の方々の署名が突ったからです。

4月には、長野県茅野市でコワーキングスペース「ワークラボハケ岳」の指定管理業務を請けることになり、さらに6月には、「ワークラボハケ岳」の隣接スペースに自主事業として「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」を拡張するため、地域の方と本棚づくりをしました。

9月には、「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン」を全国各地で開催しました。千歳市や茅野市では、まちの中の公園や駅前通路でさまざまなイベントを実施し、まちとの一体感づくりをしました。そして10月、大阪では10回目の「マイクロ・ライブラリーサミット」を開き、過去に参加した人も多く集って情報交換をしました。「ブックフェスタしずおか」では、図書館界に関係する多数のゲストが集まり、熱い議論が交わされました。伊東市では、「癒しと憩いのライブラリー」で新しい公共図書館をテーマに講演し、市内各地の本屋やまちライブラリー「うさみみまちライブラリー」にお邪魔し、さらに本のまち・神田神保町の「まちライブラリー@ブックハウスカフェ」でも講演してきました。

11月には、神戸市垂水区塩屋町にある「世界のはしっこ Books & Field」というまちライブラリーを訪問しました。デザイナーの秋松太地さんが、「世界のはしっこまで行けば、次の世界が広がる」というコンセプトのもと、建築士の奥様、秋松麻保さんと一緒に古い家をセルフリノベーションされた素敵な場所です。海が見える急な坂を上るとそこには、まさに世界のはしっこと思える空間が広がっており、近所の子ども達や親子づれが日々訪れる場所ができていました。企業や行政の力を借りなくても秋松さんのような個人が、事務所兼まちライブラリーを作ることこんな素敵な場所ができるのだという証を拝見できました。

同じく神戸市のポートアイランドには、「まちライブラリー@みなとじま」という本棚オーナー制度のまちライブラリーが誕生し、こちらにも伺ってきました。大型の団地群に囲まれた商店街の店舗を借りて、運営しているのは藤本絵里子さんです。かつて賑わっていたお店がほとんどシャッターを閉めて、閑散とした風景になっている場所にまちライブラリーを作ろうと、5000戸近い各住戸に「一緒に図書館をつくりませんか」とチラシを配って本棚オーナーを40人も集めたそうです。始めて半月も経たない頃に訪問したのですが、毎日さまざまなイベントやっ

てくださる人も現れているようです。「ブックフェスタ」を通じて、まちライブラリーの関係者のみならず、図書館、行政、地域の人たちとの出会いと交流を促進し、まちの文化活動になってきたと感じます。

『韓国の「街の本屋」の生存探求』(ハン・ミファ著、2022、クオン)という本があります。この本によると韓国でも旧来の本屋が衰退し、2011年頃から個人書店で「街の本屋」が各地に誕生し、それぞれ個性的な雰囲気を持っているそうです。日本でも2000年に2万店以上あった「街の本屋」が、現在では半分程度に減少していますが、この間にまちライブラリーは、累計で約1000か所に広がってきました。日韓ともに個性的で身近な本の居場所が求められ、それらの活動に参画したい人が増えているのでしょう。

アントネッラ・アンニョリの『知の広場 図書館と自由』(2011、みすず書房)という本があります。旧来の公共図書館が欧州でも敬遠されてきたのですが、デザイン性豊かな空間構成とコンセプトで新しい公共図書館が誕生し、それが市民に受け入れられてきているという内容です。この本が紹介するような魅力的な公共図書館が、日本でも各地に誕生してきました。私も11月に宮崎県都城市の「Mallmall」と呼ばれる商業施設をリノベーションした素晴らしい市立図書館を拝見しました。

このように注目すべき公共図書館が、増えるのは大変喜ばしいことです。しかし、一つだけ忘れられていることがあります。歩ける地域に本に触れられる場所があることが大事だということです。まちのシンボルになる図書館も重要ですが、子どもやシニアも、ベビーカーを使う親子も誰もが歩いて気軽に訪れる本のある居場所も大事です。この視点から、皆さんがやっている「まちライブラリー」の役割は大きいのではないのでしょうか。小さくても、居心地のよいまちライブラリーづくりは、ますます社会的な意味が生まれてきていると思います。無理のない範囲で、継続的に活動を続けていることにより、地域にとっても大切な場が生まれているのです。どうぞゆっくりと、楽しくまちライブラリーを堪能してください。またどこかでお会いできる日を楽しみにしております。

2023年1月  
まちライブラリー提唱者  
磯井純充



まちライブラリーに関する情報は  
<https://machi-library.org/>

## 2022年まちライブラリー5大ニュース

### 1 「まちライブラリー@ちとせ」復活(1月)

2016年にオープンしたまちライブラリー@千歳タウンプラザ(北海道千歳市)は、新型コロナウイルスの影響によってスポンサー企業の経営が厳しくなったため2021年3月に閉館しました。しかしその後、2200人を超える市民から再開を求める署名が千歳市に寄せられ、市がスポンサーとなって名前も新たに復活を果たしました。



### 2 ワークラボハヶ岳の指定管理スタート(4月)

JR茅野駅にある商業施設「ベルビア」(長野県茅野市)の中にあるコワーキングスペース「ワークラボハヶ岳」の運営を、まちライブラリーが担い始めました。より広く市民と協働できる環境を作ることで、新たなビジネスや社会活動に挑戦できる場をめざしています。



### 3 「まちライブラリー@My Book Station 茅野駅」を拡張(6月)

ワークラボハヶ岳に隣接する、まちライブラリー@My Book Station 茅野駅のエリアを広げて、駅を利用する高校生や親子連れ、シニアなど広く市民に親しまれる場にしようという試みです。地元の企業に用意していただいた材木を使って、市民の方たちと手作りで本棚を仕上げました。



### 4 「まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン2022」全国各地に広がり(9月)

各地の私設図書館、公共図書館、書店、本に関わる活動をする個人などと連携して、本を通じて人と人をつなぐ約2か月間のお祭りを開きました。北海道、長野、東京、静岡、大阪、宮崎など全国で、トークイベントや植木祭、果箱グランプリ、一箱古本市本など様々なイベントが催されました。

### 5 まちライブラリー@もりのみやキューズモールの会員登録数8000人突破(7月) & まちライブラリー@ちとせの会員登録数3000人突破(8月)

2015年に商業施設内にオープンした、まちライブラリー@もりのみやキューズモール(大阪市中央区)の会員登録数が8000人を突破しました。開館以来、利用者によるサポーター会議や本にまつわる様々なワークショップなどに取り組んでいます。また、まちライブラリー@ちとせの会員登録数が3000人を超え、市民の熱い期待がうかがえます。

## 2023年まちライブラリー未来ニュース

### 1 東京都西東京市に新たなまちライブラリー誕生(6月)

三菱UFJフィナンシャル・グループが西東京市に所有する運動場を「MUFJパーク」として一般開放します。豊かな自然とテニスコートなどの運動施設、約1万冊の蔵書を持つコミュニティライブラリーをオープンする予定です。当地では、新たに「生活の記憶」を残すプロジェクトも計画しています。詳細は4月に発表する予定です。



### 2 まちライブラリー登録数が1000件突破(3月予定)

2011年に、まちライブラリー提唱者である磯井純充の実家が所有する小さなオフィスビル(大阪市中央区)の一室を改装して、本棚を置いたのがまちライブラリーの始まりです。以来、関西を中心に全国的に登録数が増え、個人宅や店舗などの民間施設に加えて、駅や役所などの公共施設にも広がっていきました。

### 3 まちライブラリー@大阪公立大学、3月31日にクローズイベント開催(3月)

2013年4月に「まちライブラリー@大阪府立大学」として、蔵書0冊から始まりました。利用者の寄贈によって蔵書を増やしながら地域住民や学生が交流するという、まちライブラリーの取り組みを象徴する場所の一つです。3月末で閉館することが決まり、同月31日に盛大なイベントを開く予定です。

### 4 まちライブラリー@奥多摩ブックフィールド拡張開始(6月予定)

廃校となった小学校の一室で運営している、まちライブラリー@奥多摩ブックフィールド(東京都奥多摩町)を改装し、約1万冊分の本棚を新設します。運用方法の詳細は、4月頃を予定しています。

### 5 まちライブラリー@happinessカフェ拡大(5月)

京都市南区八条市営団地の再開発に伴い、団地の建替えと、分譲マンションの開発が一体で行われていました。分譲マンションの集会所が、まちライブラリーになります。誕生するまちライブラリーは、コミュニティカフェ「happiness」が運営します。

## マイクロ・ライブラリーサミットの10年を振り返る車座座談会レポート



まちライブラリーブックフェスタ・ジャパン2022の一環として、全国各地の個人や小規模団体が運営する小さな図書館が集い、活動報告を行うイベント「マイクロ・ライブラリーサミット」を2022年10月16日に開催しました。10回目の節目の年ということで、車座座談会ではこれまでの取り組みを振り返りながら、ライブラリー運営のアイデアや問題意識など様々な視点から活発な意見が交わされました。

### 「偏り」が面白い 個人の文庫が秘めるパワー

まちライブラリー@京都橋大学・嶋田学さん 2019年のマイクロ・ライブラリーサミットに参加した際、皆さんが本当に楽しそうにゆるやかにつながっていることをすごく羨ましく感じたことを覚えています。私は前職で複数の公共図書館の場に32年間勤めておりまして、公共図書館は市民のニーズや時代のトレンドなどがあって大変なのですが、マイクロ・ライブラリーのように自分の棚を作れるのはすごく楽しいですね。現在は京都橋大学で図書館司書の教員をしながら、大学図書館が管理し、運営は学生と運営委員が担う形でまちライブラリーに取り組んでいます。

大阪公立大学研究推進機構特別教授・橋爪紳也さん 公共図書館は総花で全ジャンルをフォローするのですが、マイクロ・ライブラリーの活動は偏っていれば偏っているほど面白いものになると思います。絵本を集める方がいれば、地域の歴史に特化する方もいて、食にこだわる方もいるわけです。一人ひとりが自分の部屋に持っている文庫が大きくなって社会化することでライブラリー活動になっていくことが原点です。そして、その場所を地域の多くの人が居心地良く使うようになり、最終的に「ウェルビーイング=よく生きる」につながっていけばいいと思います。

### ライブラリー運営、鍵はアイデアの継続性

まちライブラリー提唱者・磯井純充 大型スーパーよりもコンビニ、大型コンピューターよりもスマホといった具合に、より身近なものが勝ち続けていくと感じています。マイクロ・ライブラリーを運営する皆さんが取り組んでいることは先進的なことなので、ぜひ継続していただきたいです。ただ、「継続」と言っても、事業の継続ではなく、人間のアイデアのクリエイティビティを続けていかなければいけません。

まちライブラリー@ひびうた文庫・村田奈穂さん 私たちの事業所では最初は障がい者の方のための日中一時支援事業をしていたのですが、来所者の要望で就労支援事業も加えました。また、物静かな人が、周囲の音がうるさくてもその場にいられるようにと本を置き始めたところ、本を目当てに多くの人が訪れるようになり、本の事業を大きくしました。このように最初の事業モデルにとらわれずに利用者のニーズに合わせた仕事が次々と生まれていて、磯井さんが話されたように、新しい時代の仕事のあり方を毎日感じています。

### あと5年運営できるか…活動資金の切実な悩み

公益財団法人江北図書館・久保寺容子さん 私たちは約120年続く私設図書館として、成田山仏教図書館などと並んで日本図書館協会に加盟しています。ただ、恥ずかしながら恐らく日本で一番経営が苦しい図書館です。このままだと5年もたないかもしれないという状況なのですが、みなさんは資金面をどうされているのでしょうか。

うさみまちライブラリー・鈴木真紀子さん 私たちの場合は、ライブラリー活動は「部活動」だと思って割り切っています。私たちの街(静岡県伊東市)にはそこまで大きな産業が無いので、ビジネスにつなげるのは難しいと思っています。本業でお金を稼いで、そのお金を人生の潤いに使いたいと思っています。ライブラリーをボランティアで手伝っていただいている方には、お金ではない価値を感じていただいているのかなと思っています。

磯井 私も元々は鈴木さんと同様のやり方でして、基本はボランティアで回しています。ただ、まちライブラリーの数が増えてくると、立ち上げや運営の依頼を受けるようになり、その場合はきちんとお金をいただいています。そういうエンタープライズモデルを展開したことが、まちライブラリー通信の発行など活動を広げる一つの源泉になっています。

まちライブラリー@JimoKids石蔵秘密基地・畑川麻紀子さん 立ち上げの際にクラウドファンディングを行いました。その資金がずっと続いているわけではありません。私個人で毎月賃料を支払っているという状況です。ただ、クラウドファンディングを行って、お金を寄付することを厭わず、寄付することで満足してくださる方もいらっしゃるということを知ったので、この場でシェアさせていただきます。